



代表取締役
馬木浩重氏

プロフィール

愛媛県新居浜市出身。工学院大学建築学科を卒業後、大手ハウスメーカーに勤務し、造成開発の仕事に携わる。平成10年に独立し、(株)ヒューマン(一級建築士事務所)を設立。個人住宅や集合住宅の設計、エクステリアの設計、都市計画などを手がけている。



オープンスタイルのアプローチとカースペース。住宅と住宅の境界もあいまいなデザインにすることによってつながりをもたせ、空間に広がりを出している。
(第18回エクステリア施工コンテスト 猪狩賞受賞)

統一性のあるポケットパーク的な外構で街並の美しさを表現

「青葉の森の街」と名付けられた、千葉県千葉市中央区にあるこの団地は、都市基盤整備公団が8年ほど前から開発・販売を行っているもの。すべてが完成すると、650棟が建ち並ぶ大規模なニュータウンになります。わが社は数ブロックのエクステリアを手がけており、ここにご紹介するのは一例です。

住宅が8棟並んでいるブロックですが、ハウスメーカー8社が各戸の建築を担当したため、1軒1軒のデザインは異なります。そこで、統一性のあるエクステリアをつくって全体につながりを持たせ、街並としての美しさを表現しました。

基本テーマは「カーポートを兼ねたポケットパーク的なエクステリア」。敷地に高低差があり、階段を設けることが前提となっていたため、その階段脇のスペースをセットバックさせて、オープンスタイルのアプローチとカースペースをつくりました。それによって、6m道路に面しているうえに空間に広がり生まれ、より快適なスペースになりました。カースペースは2台分のスペースをとり、土間コンクリートとインターロッキングで仕上げ、目地部分にはリュウノヒゲを植え込んでアクセントにしています。

また、アプローチの床と門柱はドイツのソルフォーヘンという石を乱張りにし、花壇の周囲には伊勢石をあしらひ、階段はレンガブリックで仕上げ、踏み面につぶ石を埋め込むなど、さまざまな石材を使用。さらに、ウッドフェンスを取り入れるなど自然素材を多用して、優しさや安らぎを感じさせるエクステリアに。そして、黒のエトランポ手摺を使用して、空間を引き締めるポイントにしました。

それぞれの住宅によって凹凸を加えたり、カタチに変化をつけながらも、これらの素材と意匠、シンボルツリーをはじめとした植栽プランの統一によって、調和のとれた街並づくりを実現。ポケットパーク的な楽しさも表現しました。完成してまだ1年ほどですが、数年後緑が大きく育ち、花が増えていくと、街並の美しさがさらに際立つでしょう。

●設計におけるポイント

第一に、門扉から玄関へのラインにアールをつけたり、サイドから入るカタチをつくるなど、アプローチに変化をつけることが重要なポイントです。門扉を玄関の正面に設置して、まっすぐに入るカタチにしてしまうと、間の抜けた印象になるから

です。それに比べて、アプローチに変化をつけると、きれいに見えるうえ、外観全体の印象も引き立ちます。建物とエクステリアとの境界を消し、一体化を図るのも美しい外観をつくるポイント。庭木の足元に石や背の低い植物をあしらうなど、建物の基礎の部分を目立たせない工夫が必要です。

植物が映える舞台づくりも重視し、植物と調和する自然素材を多用します。とくに、石はひとつ1つ形が異なり、偶然性のある面白さが魅力なので、さまざまな種類のを組み合わせるようになっています。ただし、施主様があとで手を加えて楽しめるように、余地を残すことも大切です。

昨今のガーデニングブームの影響で、エクステリアを構成するアイテムも素材も増え、エクステリアはどんどん変わっています。そして、お客様も知識が豊富になり、我々はハード、ソフトの両面で提案力をさらに磨く必要があります。とくに、団地の場合は、エクステリア＝街並づくりですから、点ではなく線でとらえる工夫をして、資産価値が高まる美しい街並を創造することが重要でしょう。